



老 慧
長 智

李 登 輝

その5【全5回】

台湾はすでに独立国で、今必要とされているのは台湾人としてのアイデンティティ。その思いは李氏の信念になっている。本省人、外省人といった区分けがなくなることが願いだ。

でも、何も具体的なことはできません。台湾は国際的に法的な地位を獲得しておらず、国連での加盟賛成は少数です。逆に、中共（中国）は台湾は自国の領土だとあらためて持ち出してくるだけです。

アメリカは台湾の法的地位についてあいまいな態度をとっています。1951年のサンフランシスコ条約でも、日本が台湾をどこに返すか、一言も触れられていません。ちなみに米国は1898年のスペイン戦争の戦後処理でも、フィリピンやキューバの帰属をはっきりさせませんでした。米国は台湾について明確には言わないのです。

私は以前から、「台湾はすでに独立した一つの国である」と言っております。ですから今さら独立うんぬんという必要もないと考えています。台湾は国際法上で判例のない特殊な状態にあります。そうした状態で、台湾の人々に「台湾は自分たちの国だ」という確信がないと誰も助けてはくれません。

台湾人に必要なのは、台湾人としてのアイデンティティを持つことです。台湾人は自国の歴史という大陸のことばかりでしたので、私は総統時代に台湾の歴史を編纂した新しい教科書もつくりました。「本省人（戦前からの住人）」「外省人」という区分けではなく「新台湾人」が一人でも多く育つことが私の願いです。

台湾はすでに一つの独立国 「新台湾人」が育つてほしい

今年3月に台湾では総統選挙が行われます。いろいろな

人から選挙について尋ねられますが、何も言いたくありません。私は国民党の指導者として台湾の民主化を進めましたが、国民党から見れば反逆者でしたので、潔く国民党から離れました。総統に誰がなるかは台湾人民が決めることであり、私ではありません。

ただし、こうしたことを指摘しておきたい。台湾では総統の権限が強い時代が長く、総統選に勝つことが政治の実権を握ることだと誰もが思っています。しかし、本当は国会

（立法院）が政治の主になるべきなのです。国会が人民の声を反映して発表し、決めていく。それが（民主主義国では）当たり前のことです。台湾では憲法改正が大きな争点に

なっています。陳水扁政権は改正に前向きで住民投票も行いたい意向ですが、そんなに改正を急ぐ必要はないと考えています。少しずつ見直していき、その後で名称の変更も含めて住民投票すればよい。

同じように台湾の国連加盟についても、わざわざ住民投票にかける必要もないでしょう。実際のところ、住民投票で国連に加盟すべしとなっ